Frente

三重県男女共同参画センター
フレンテみえ
フレンテとはスペイン語で「前向き」という意味です。

2026. 3
vol. 104

特集！

地方の人口減少、その背景にあるものとは
―見えない〝不公平〟が、人口を減らす―

「見えない＋ない」気づくための最初の一歩

事業ご案内

- 令和8年度フォーカスみえ
  日本のトイレ問題を考える
  ～女性トイレはなぜ並ぶのか～
- **フレンテフェスタ 2026**

事業報告

- **総文パープル・ライトアップ 2025**
- 女性に対する暴力防止セミナー
  信田さよ子講演会&相談会
  「ホントに私が悪いんですか？」
- こころの充電スポット
  よりみちcafeふれんて
- パートナーグループの皆さんの交流イベント
  みんなでつくるフレンテ交流会
  「フレレクde交流会」
- **男女共同参画フォーラム**
  ～みえの男女(ひと)2025秋～

不定期連載

- みえのひとびと　第16回
  稲垣法信(いながきのりあき)さん（株式会社 INATETSU 代表取締役）

コラム

- **男女共同参画って誰のため？**　ほか

地方の人口減少、その背景にあるものとは
―見えない“不公平”が、人口を減らす―

近年、多くの地方で、子どもの数の減少や若い世代の都市部への転出により、人口減少が進んできています。私たちの暮らす三重県も決して例外ではありません。人口が減っていくことによって、公共交通、医療、買い物、学校、地域の行事など、これまで当たり前にあった暮らしの基盤の維持が難しくなる恐れがあります。

地方から都会へ人が移っていく理由は様々ですが、近年は、進学や就職をきっかけに女性が地元を離れ、そのまま都会で暮らすことを選ぶケースが多いことも知られています。その背景には働き方や役割への期待、地域の慣習などの中で、女性が「選びにくさ」や「息苦しさ」を感じやすい状況があると考えられます。

今回の特集では、こうした背景を「ジェンダーギャップ」という視点から見つめ直します。

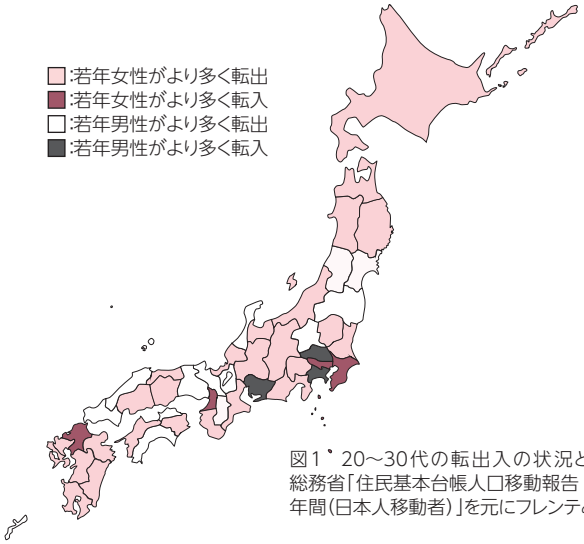


図1 20～30代の転出入の状況と男女比
総務省「住民基本台帳人口移動報告 2025年年間(日本人移動者)」を元にフレンテみえ作成

多くの若い女性が地方を離れている

まず、現状を確認してみましょう。若年層（20～30代）について、2025年に都道府県外に転出した人の数と、都道府県内に転入してきた人の数を比較した地図（図1）によると、都市部では転入超過、地方部では転出超過の傾向があることがわかります。

男女別に見てみると、26の道県で「女性がより多く転出」となっており、地方部で特に女性の転出が目立ちます。

三重県の過去10年の傾向を見てみると、2023年を除く9年で「女性がより多く転出」という結果が出ています。

図2　三重県における20～30代の転出超過人数の推移(男女別)

原因は…？

三重県では、若い世代の転出超過が続いており、中でも女性の割合が高いことが課題として指摘されています。その背景には、進学や就職の選択肢、働き方、地域の中で期待される役割など、複数の要因が重なっています。

例えば、県外進学をきっかけに地元を離れ、そのまま就職するケースは少なくありません。「地元に戻りたい気持ちはあるものの、自分の希望に合う仕事や働き方が見つからない」と感じる人もいます。また、結婚や出産、家事・育児といったライフイベントに対して、無意識のうちに性別による役割分担が前提とされている場面もあります。こうした環境の中で、将来のキャリアや生き方を描きにくいと感じる若い女性がいることも事実です。これらは個人の選択や意識の問題として片づけられるものではありません。地域の在り方や職場環境、周囲の言葉や期待など、社会全体の構造が関係していると考えられます。

三重の20～30代女性が感じたモヤモヤ

「結婚しているけど子どもは産まないの?」といった何気ない言葉や、「パートナー」ではなく「奥さん」と呼ばれることに、嫌だなと思うことがあります。
(三重県在住／30代前半)

移住してきて同世代の**コミュニティを作る難しさを感じています。**
(三重県在住／30代前半)

医学部受験の面接対策で「10年後のキャリア」を問われる際に、**結婚や出産をどうするのかという前提があった。特に女性はきちんと答えられるよう準備するよう指導された。**(三重県在住／20代後半)

地方だったら公務員かパートかくらいで、**本当に選択肢が限られていると感じることがあります。**
(三重県出身／30代前半)

〈三重県の女性の声〉出典:地方女子プロジェクト

フレンテメモ

官民連携DX女性活躍コンソーシアム

地域女性をデジタル人材として育
令和7年7月に設立されました。政
で、女性の活躍拡大と持続可能な

そのモヤモヤの原因は無意識な思い込み「アンコンシャスバイアス」

地域の慣習や職場の雰囲気、役割への期待など、私たちが無意識に抱いている思い込み――アンコンシャス・バイアスが、若年女性の選択に影響している可能性もあります。ここからは、地域と職場の視点で考えてみましょう。

地域に根づく「当たり前」は、誰にとっての当たり前か

若年女性の人口流出は、進学や就職といった個人の選択の問題として語られがちですが、その背景には、地域に根づいたアンコンシャス・バイアスが存在しています。たとえば「いずれ結婚して地域を出る」「女性はサポート役が向いている」「子育ては女性が担うもの」といった無意識の思い込みは、本人に直接向けられなくても、地域で聞いて・見て・感じてきた日常の風景として、少なからず影響を及ぼします。

地域活動における役割分担や、話し合いの場での発言の扱われ方、女性の意見が軽視されがちな風土は、地域を閉鎖的に感じさせ、将来の展望を描きにくくします。その結果、「ここで自分らしく生きられるだろうか」という問いに、肯定的な答えを見出せない若年女性が、地域を離れていくこともあります。

「郷に入れば郷に従え」が重荷になるとき

「郷に入れば郷に従え」という言葉があります。地域の文化や慣習を大切にし、支え合って暮らしていくための知恵でもあります。一方で、世代が移りゆく中で、その「当たり前」に無理に合わせることが、誰かにとっては息苦しさにつながっている場合もあります。地域に必要なのは、「守る」という一方向の視点ではなく、誰もが「ここにいていい」「ここで挑戦できる」という実感を得られることではないでしょうか。慣習を重んじることで大事にしたい人や文化を失うことになってしまっては、郷自体がなくなってしまうことにもつながりかねません。

職場に残る無意識の思い込みと働き続ける選択

若年女性の流出を考えるうえで、地域の雇用環境と職場文化は重要な要素です。表面的には制度が整っていても、実際の運用にアンコンシャス・バイアスが残っている場合、働き続けたいという意欲は削がれてしまいます。一度働いてみたものの、自分のキャリアの展望が見えないといった理由で地元を離れるケースもありますし、近年では、「会社の制度の運用状況を見て、仕事と子育ての両立が難しそうだ」と感じ、結婚を機に夫妻で都市部へ転出する選択をするケースもあります。

個人の努力に頼らない働き方へ

「重要な仕事は長時間働ける人に任せる」「女性はいずれ辞めるかもしれないから育成は後回し」といった無意識の判断は、女性のキャリア形成の機会喪失にもつながります。また、育児や介護と仕事の両立を個人の努力に委ねる職場では、将来を描くことが難しくなってしまいます。こうした状況は、特定の人の意欲や能力の問題ではなく、職場全体の前提や評価のあり方によって生み出されている側面があります。

誰かが無理をすることで成り立つ働き方ではなく、多様なライフスタイルを前提とした職場づくりが求められています。評価基準の透明化、柔軟な働き方の当たり前化、管理職自身の考え方を大きく転換させることで、「この地域で働き続けたい」という選択肢が現実のものになります。

Check！

アンコンシャス・バイアスに気づくことは、誰かを責めるためではなく、自分や身近な環境を見直すきっかけです。地域や職場で感じた小さな違和感を言葉にし、立場や世代の異なる人と共有することから始めてみましょう。「これまで通り」ではなく、「これからどうありたいか」を問い直すことが大切です。地域や職場で、性別にとらわれることなく、能力を発揮しながら助け合える社会へ。私たち一人ひとりの行動で、その一歩を踏み出してみませんか。

第16回

不定期連載インタビュー　フレンティが聞く！

みえのひとびと

稲垣法信（いながきのりあき）さん　株式会社INATETSU 代表取締役

「鉄は硬いし、仕事も堅い。」でも、発想はやわらかく。男性社会といわれてきた鉄工業界に、新しい風を吹き込む会社、株式会社INATETSU。

令和7年度四日市市「男女がいきいきと働き続けられる企業」大賞を受賞されました。社員一人ひとりが安心して働き、子どもを産み育てられる環境づくりや、性別にとらわれない自立した人材育成に取り組む姿勢が高く評価されています。代表取締役社長・稲垣さんに、Well-beingな未来を見据えた組織づくりや、新しい発想で鉄工業界を変えていく挑戦についてお話をうかがいました。

男性中心の業界で、なぜ女性が半数を占めるようになったのですか？

四日市は大手企業が集まる地域。自社ならではの強みを磨き、独自のフィールドで成長を続けてきました。男性がいい、女性がいい、という話ではなく、これまでも男女ともに採用してきました。結果として女性が離職せずに弊社に残ってくれた。自然と女性が半数を占める割合になりました。以前は男性中心の風土があり、「女性にできるのか」という空気もありました。でも今は、性別で評価する雰囲気はほとんどなく、実力で認め合う職場に変わってきました。資格取得率も高く、女性社員も着実に力を伸ばし、第一線で活躍しています。そうした環境を早く作りたかったんです。

鉄の部品は大きくなると何百キロにもなりますが、持ち上げられない場合はクレーンを使えばボタンひとつです。男性でも女性でも、まったく問題ありません。

女性比率が高くなることで、新しく入った社員も「女性だからできない」という感覚を持たなくなり、先輩が実際にやっている姿がロールモデルとなり、「やってみよう」という気持ちにつながります。高校の先輩がいることで、「入ってみよう」と思えることもあると思います。

『公平に扱う』とは、どういうことですか？

よく“平等”と言われますが、私は「公平さ」が大切だと思っています。女性だから甘くするとか、補助的な仕事をさせるということは公平さにかけていると思っています。溶接部門や工程管理にも女性社員がおり、評価も同じ基準。そのため、先輩男性社員より若手女性社員の方が給料が高いことも普通にあります。能力や結果で評価し、性別は関係ありません。性別で決めつけず、公平に、育てながら、社員の希望するキャリアを、尊重していきたいと考えています。

働き続けられる環境づくりについて、どのように考えていますか？

育休はもちろん取得可能で、現在も取得中の社員がいます。フレックスタイムや短時間勤務も整っており、状況に応じて在宅勤務も認めています。社員一人ひとりの事情に応じて、働き方を選べる環境です。建設中の新社屋には託児所も設け、「子どもを預けられないから働けない」という理由をなくしたいと考えています。もちろん男性社員も利用可能です。

僕がなかなかの健康オタクなので、社員の健康にも力を入れています。「身体が精神をつくる」と考えているため、朝食・昼食を無償提供する計画もあります。

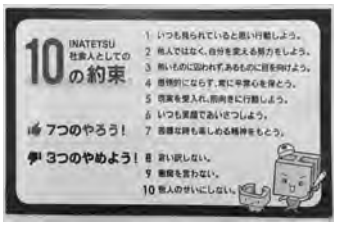
会社は労働契約の場であることは間違いありません。しかしそれだけではつまらない。人生を少しでも良くする場所であってほしいと願っています。

さらに力を入れているのが、社員同士が自然に打ち解けられる仕組みづくりです。中途採用社員が孤立しないよう、社内SNSやサークル活動を通じて部署を越えた交流の機会を定期的に設けています。同じ趣味を持つ社員同士で、社内SNSを通じて近くの山に登ることもあります。孤独にさせないことが安心して働ける環境につながり、充実した休日は平日の仕事への前向きさにもつながります。有給休暇が取りやすい環境を整え、社員のワークライフバランスを大切にしながら、働きやすい環境づくりに取り組んでいます。

みなさんが自分らしく働ける会社にするために、どんな取り組みをしていますか？

自立した社員を育てたいと思い、ワーキンググループを設け、社員自身が主体となって動ける環境を作っています。SNSの発信やイベント企画、評価制度に至るまで、社員のアイデアを取り入れながら、社員が主体的に関わって進めています。1on1の面談も取り入れ、社員一人ひとりの思いや考えをじっくり聞く場も設けています。

私は経営者ですが、働きやすい会社は社長が作るものではなく、社員みんなでつくっていきたいと考えています。愚痴を言うより、「こうしたい」と声をあげてほしい。働きにくいと感じるなら、どう変えたいかを伝えてほしい。会社を変えられるのは社員みんなだと、いつも伝えています。社員を大切にする会社だからこそ、性別や年齢に関係なく、成果や取り組みが正当に評価される会社でありたいと思っています。



弊社では、経営理念のもとに、3つのミッション、9つの行動指針、10の約束を掲げています。ある時、女性社員から「大事なことだから名刺の裏にも書きましょう」と提案がありました。率先して実践しようとする姿を、うれしく感じています。

多様な人が働く会社だからこそ、理念やビジョンの共有は欠かせません。それが現場に根づくことで、職場には自然と前向きな空気が生まれています。最終的には、この地域で「INATETSUっていい会社だね」と言ってもらえる会社にしたい。八郷地域で誇れる存在になれると、私は信じています。

編集後記

「ぼくはスーパーポジティブ人間です」と笑顔で語る稲垣社長。「人手不足」や「人口減少」など、さまざまな社会課題がある中で、「働きやすい環境づくり」や「公平な人事評価制度」の導入など、着実に改革を進めてこられたお話をうかがいました。その積み重ねが、“女性が働きやすい職場”を実現し、いまでは女性から選ばれる企業へとつながっています。

前向きな想いと具体的な行動が、組織を変え、未来をつくる。その確かな歩みと力強い覚悟を感じるインタビューとなりました。

株式会社 INATETSU
〒512-8061 三重県四日市市広永町74番地　TEL:059-363-0600

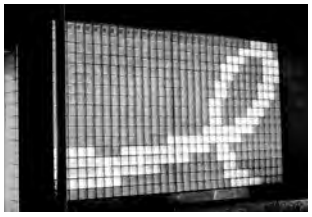
フレンテメモ

三重県性暴力の根絶をめざす条例

三重県性暴力の根絶をめざす条例は、性暴力を決して許さない社会の割を明確にし、予防啓発や被害者支援、相談体制の整備、二次被害の定めています。さらに、子どもへの性暴力防止のため、教職員への研修

内閣府「女性に対する暴力をなくす運動」（パープルリボン運動）
総文パープル・ライトアップ2025

開催日
11月8日(土)～12月7日(日)



「女性に対する暴力をなくす運動」期間（毎年11/12～25）にあわせて、フレンテみえでは広場の「ナナ像」を明るくライトアップしました。さらに、裏の日本庭園に面するタイル窓を装飾し、夜には灯りが透けてリボンが浮かび上がる撮影スポットとなりました。

また、関連展示として『漫画からDV・性暴力を考える「これはフィクションじゃない」展』を実施。漫画は身近なメディアですが、時にDVや性暴力、児童虐待といった暴力が描かれることがあります。作品はフィクションですが、そうした暴力は物語の中だけではなく現実に起こりうるものとして、13の漫画作品からそれぞれ暴力の描写を抜き出し、ジェンダーの視点で解説を加えました。

来館の皆さまに、「パープルリボンに願いを。」と題して、「暴力のない未来へ向けたメッセージ」を呼びかけたところ、《一人ひとりがやさしい世界に》《あなたのせいじゃないよ》《嫌なことはイヤといえるように》等、たくさんのメッセージが集まりました。暴力を許さない。そう私たちが誓うことで、社会を変えていけたらと願います。

女性に対する暴力防止セミナー
信田さよ子講演会＆相談会「ホントに私が悪いんですか？」

開催日
11月15日(土)

今年度の女性に対する暴力防止セミナーは、日本公認心理師協会会長であり、原宿カウンセリングセンター顧問の信田さよ子氏をお迎えし、DVや虐待の被害者が抱く自責感をテーマとした講演会と相談会の二部構成で開催しました。

講演会では、建前上は対等とされる家族の間にも権力関係がある構造について語られました。被害者は家族から暴力を受けることで混乱し、「自分が悪い」と思い込むことでその状況を受け入れようとします。加害者は「怒らされた自分こそ被害者だ」と主張することさえあります。だからこそ被害者の方が、「自分が受けているのは暴力であり、自分は被害者だ」と「自己定義（ビカミングアウト）」するのが大事であるとのことでした。

また、既存の常識に縛られない知識を得ることが力になることや、回復の道のりを「ヴィクティム・ジャーニー」と捉える視点も示されました。

相談会では、参加者から事前に募集した相談と、会場で挙手された方の相談に直接お応えいただきました。複雑なお悩みにも明快にご回答いただき、「今後の生き方の指針となった」等の感想が寄せられました。

こころの充電スポット
よりみちcafeふれんて

開催日
9月27日(土)、10月29日(水)、12月19(金)

女性が安心して自分のための時間を過ごせる居場所をオープンしました。フリースペースは申し込み不要、入退室も自由で、他の参加者とおしゃべりをしながら編み物を楽しんだり、一人で静かに読書をしたり、のんびり過ごせるように工夫を凝らしました。

3日間とも共通の講座として「自分を知って、一歩踏み出す心理学『交流分析ぷらすα』」を実施しました。講師は公認心理師の江坂愛子さんです。TEG3（東大式エゴグラム）という心理テストを使い、参加者の皆さんに心の状態をグラフ化することに取り組んでいただきました。出来上がったグラフを見せ合い、それぞれの感想を語り合う時間もありました。それに加えて9月は「リラックス呼吸法」、10月は「自分褒めのススメ」、12月は「未来の私への手紙」というテーマのワークも行いました。「温かい飲み物を飲みながらゆったりした環境の中で過ごせた」「託児があり、家ではできないことができた」「少し心が軽くなりました」等の感想が寄せられました。

の実現を目的に、被害者の尊厳と人権を守ることを基本理念として制定されました。県の責務や市町、事業者、県民それぞれの役の防止を総合的に進める内容です。デートDVやアスリートへの盗撮なども性暴力と定義し、県が根絶に向けた施策を行う責務を確保など学校の役割も示されています。性暴力根絶を目的とした条例の制定は、福岡県、茨城県に続き全国で3例目です。

報告

パートナーグループの皆さんの交流イベント
みんなでつくるフレンテ交流会「フレレクde交流会」

開催日 12月21日(日)

例年2月に開催している「フレレク交流会」ですが、今年は改修工事による休館（令和8年1月～4月）を控え、ひと足早く12月に開催いたしました。当日は感染症対策のため、午後からの短縮スケジュールへの急な変更もありましたが、皆様の健康を最優先に実施。お菓子づくりでは、「レモンケーキ」と「スイートポテト」に挑戦！ 和気あいあい作業を進めるなか、オーブンから甘～い香りが漂い始めると、会場は一気に幸せな空気に包まれました。焼き上がりを待つ間には、フレンテみえによるミニトークや動画視聴を楽しみ、最後は自分たちで作ったお菓子を囲んでのティータイム。グループの垣根を越えて会話が弾む、心温まるひとときとなりました。

急なスケジュール変更にもかかわらず、終始笑顔でご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました！

休館明けにまた元気な皆様とお会いできることを、スタッフ一同、楽しみにしております！

事業予告

5/24 令和8年度フォーカスみえ
日本のトイレ問題を考える ～女性トイレはなぜ並ぶのか～

外出先でトイレに行こうと思ったとき、行列ができているのを誰しも一度は見たことがあるのでは？

「急いでいるのにこんなに並ぶなんて…」「後ろにたくさん人が並んでいると思うと、焦ってしまう…」そんなことを感じる方もいらっしゃるかもしれません。

しかし、よくよく見てみると並んでいるのはいつも女性ばかりではありませんか？

トイレは誰もが使うものでありながら、これまで「トイレの行列問題」は見落とされがちでした。ようやくSNSなどでも議論が活発になり、国としても環境改善に向けて動き出しています。今、ホットなテーマである「公平なトイレ環境」とはどのようなものか、みなさんと一緒に考えます。

事業案内

- 日　時　5月24日(日)　13:30～15:00
- 会　場　三重県総合文化センター内 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」3階 セミナー室C
- 対　象　テーマに関心のある方
- 参加費　無料
- 定　員　50名
- 講　師　百瀬まなみさん（百瀬まなみ行政書士事務所 行政書士）
  小林純子さん（有限会社設計事務所ゴンドラ 代表、一般社団法人 日本トイレ協会 名誉会長）
- 託　児　あり　要事前申込　1歳6ヶ月～小学3年生程度 子ども一人につき1,000円 託児申込締切　5月10日(日)

6/21 フレンテフェスタ 2026

フレンテみえで日々活動しているパートナーグループの活動発表イベントを今年も開催！毎年おなじみのフレンテフェスタでは、様々なグループによる展示やステージ発表、ワークショップなど内容盛りだくさん！ 今年のテーマは「防災・減災」です。もし南海トラフ地震が起こった場合、三重県も大きな影響が予想されています。だからこそ、今のうちから自分にできることを考えておくのが大切です。防災の知識が必要なのは大人だけではありません。フレンテフェスタではお子さんも楽しみながら学べるワークショップも多数出展予定です。ご家族一緒にお越しください！

事業案内

- 日　時　6月21日(日)　10:00～15:00
- 会　場　三重県総合文化センター内 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」多目的ホール 他
- 対　象　すべての方
- 参加費　無料（物販、ワークショップなど一部有料）

フレンテメモ スポーツ界における女性活躍 ▶▶▶ アスリート分野の女性参画は、着実に進展しており、パリオリンピック 男女同数に近づきつつある一方で、指導的立場における女性の参画 さらに、JSPO加盟団体における女性理事の割合は2024年度調査

事業報告

男女共同参画フォーラム　～みえの男女（ひと） 2025秋～

開催日
11月29日(土)

一年に一度開催しているフレンテみえの集大成のイベント、男女共同参画フォーラムを今年は時期を変えて11月に開催しました。今年度のテーマは「スポーツとジェンダー」。今様々なスポーツでハラスメントの問題や指導者と選手の間での力関係について話がされてきています。それを踏まえて、ホールイベントでは元バレーボール全日本代表選手の益子直美さんをお招きし、お話を伺いました。

また、午前中には4つの分科会を開催したほか、様々なパネル展示も行い、いろいろな角度から男女共同参画について考える一日となりました。

“いい服の日”に作業服でモチベーションアップ! 地域貢献とIターンの力
主催
第38回農山漁村のつどい

学校の性暴力の事実と防止
主催
声を聴きつなぐ会

山梨の女性史とジェンダー平等の活動を聞く
主催
男女共同参画みえネット・三重の女性史研究会

“地方女子”のリアルとこれから
主催
フレンテみえ

今年は4つの分科会を開催しました。どの分科会も盛況でにぎわい、それぞれの主催団体ごとに違った切り口で男女共同参画を考えるきっかけとなりました。男女共同参画フォーラムの分科会はフレンテみえのパートナーグループの皆さんにも出展いただけます。普段活動発表の場がない団体の皆さんも次はご出展してみてはいかがでしょうか?

ホールイベント

監督が怒ってはいけない大会を開催した理由　講師:益子直美さん(元バレーボール全日本代表)

全国各地で開催されている「監督が怒ってはいけない大会」を主宰する、元全日本女子バレーボール代表・益子直美さんをお迎えしました。

はじめに、この大会を立ち上げた背景として、少子化や価値観の多様化など、スポーツ界が大きな変革期を迎える中で、子どもたちを取り巻くスポーツ環境をより良いものにしていく必要性について語られました。

続いて、ご自身の経験をもとに、指導者による威圧的・暴力的な指導の問題についてお話しいただきました。言葉だけでなく、態度や雰囲気によって子どもたちに恐怖を与えてしまう危険性や、そのような指導が心や成長に及ぼす影響について、具体的に解説されました。

また、感情に任せて怒るのではなく、アンガーマネジメントやペップトークを取り入れ、前向きな言葉で伝える指導の大切さにも触れられました。目先の勝利を追い求めるのではなく、子どもたちが「明日も、ずっとバレーをやりたい」と思える未来を見据えた指導環境を整えることこそが、大人である指導者の大切な役割であると、強く訴えられました。

今回ご講演いただいた内容はスポーツ指導の場にとどまらず、日常生活や子育て、職場でのコミュニケーションにも通じるものとして、多くの参加者から共感の声が寄せられました。

パネル展示

一日をとおして様々なパネル展示を行いました。
三重県内の各市町の男女共同参画について一覧にまとめたものや企業の取組内容のほか、パートナーグループの皆さんにもパネルを出展していただきました

パートナーグループの皆さんの展示は、三重県のスポーツ女性について、ジェンダー平等に関するもの、女性差別撤廃条約選択議定書の解説といったまさに男女共同参画を進めるうえで必須の知識を学べるものばかり。来館者の方々も興味深そうに展示を眺めていました。

さまざま視点から男女共同参画を考える
フォーラムはいかがでしたか?
興味が出てきた方はぜひ次回のフォーラムにお越しください!
最新情報はフレンテみえHPなどで発信中です。
みなさまとお会いできる日を楽しみにしています!

(2024)で史上初の男女同数を達成しました。日本選手団においても、パリ大会での女性アスリート比率は46.7%に達し、
画は依然として課題が残っています。パリ大会における、コーチングスタッフの女性比率は11%にとどまりました。
で27.2%となっており、指導現場および組織運営の両面においてさらなるジェンダー平等の推進が求められています。

「男女共同参画って誰のため？」

「男女共同参画」「男女平等」「ジェンダー平等」。これらの言葉を耳にする機会が増えた昨今、皆さんはどのようなイメージをお持ちでしょうか。

本来これらは、あらゆる性別の方にとって必要な考え方であるはずです。しかし、どうしても「女性のためのもの」という印象を持たれがちで、特に多くの男性にとっては「自分とは無関係なこと」と感じられることが多いようです。

本コラムでは、男性特有の相談窓口の必要性や、「男らしさ」という呪縛が与える影響など、性別による困難は女性に限った話ではないことをお伝えしてきました。ここまで読み進めてくださった皆さんは、こうした言葉へのイメージに少し変化があったでしょうか。

現在の日本では、一般的に男性と比べて女性の方が不利益を被る機会が多いとされています。だからこそ、「女性活躍推進法」（内閣府男女共同参画局）や「女性支援新法」（厚生労働省）といった法律が整備され、女性が自分らしく生きられる社会をめざして多くの方が尽力しています。

しかし、それだけでは男女共同参画やジェンダー平等は実現しません。

世の中にはたくさんのジェンダーバイアスが存在します。生きづらさを抱えているのは、決して女性だけではありません。「優遇されている」というイメージの裏で苦悩する男性や、性別規範によって困難を強いられるLGBTQの方々。視点を変えれば、誰もが「性別」という枠組みの中で何らかの痛みを抱えていることが見えてきます。

大前提として、女性の生きづらさの解消は急務です。しかしそれと同時に、私たちはより広い視点で性別について考える必要があります。なぜなら、性別と無関係に生きている人は一人もいないからです。

誰もが既存の性別イメージから自由になることで、結果として女性だけでなく、すべての人たちが自分らしく生きられるようになるはずです。「そんなのはきれい事だ」「実現なんて不可能だ」と感じる方もいるかもしれません。けれど、理想を掲げなければ、そこへ近づくことさえできません。

このコラムをとおして、一人でも多くの方に「これは自分自身の問題だ」と感じていただけたら嬉しいです。皆さんと一緒に誰もが一人の人間として尊重される世の中をめざしていけることを願っています。

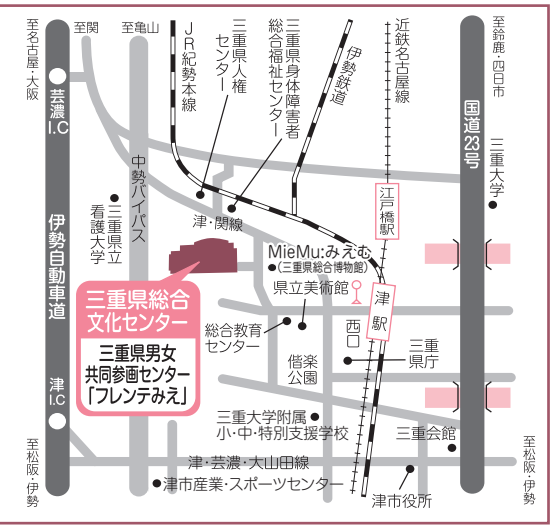
フレンテみえって、なに？

三重県の男女共同参画社会を推進する拠点施設として津市の三重県総合文化センター内に平成６年オープン。情報発信・研修学習・相談・調査研究・参画交流および人材育成の「６本の柱」で、様々な事業を展開しています。ぜひ皆さま、お気軽にお立ち寄りください！

～詳しい情報はホームページまで～

フレンテみえ　検索

三重県男女共同参画センターまでのご案内



休館日　毎週月曜日
年末年始
（12月29日から1月3日まで）

交通
■バス／津駅西口1番のりばから約5分
■徒歩／津駅西口から約25分
■自家用車／伊勢自動車道芸濃インターから約10分、津インターから約10分
※駐車場は1,400台（無料）。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

〔年4回発行／次回 6月発行予定〕

発行
MIE CENTER FOR THE ARTS 三重県総合文化センター
三重県男女共同参画センター フレンテみえ
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地
TEL：059-233-1130　FAX：059-233-1135
URL https://www.center-mie.or.jp/frente/
E-mail：frente@center-mie.or.jp
再生紙を使用しています。

生き方・家族・人間関係・離婚・職場 などなど…　性別にとらわれずに自分らしく生きるために、様々な悩みの相談をお受けします

☎ 女性のための電話相談　秘密厳守・相談無料

フレンテみえ相談室　専用ダイヤル 059-233-1133

相談時間＼曜日	月	火	水	木	金	土	日
朝 9:00～12:00	休館日※	●	●	●	●	●	●
昼 13:00～15:30		●	－	－	●	●	●
夜 17:00～19:00		－	－	●	－	－	－

※祝日の場合「朝・昼」相談あり（翌平日が休館日）

※このほか、女性のための面接相談・法律相談・心理相談と、男性のための電話相談「みえにいろ相談」を実施中。詳しくはお問合せください。

フレンテみえ相談室のご案内
（切り取ってご利用ください）